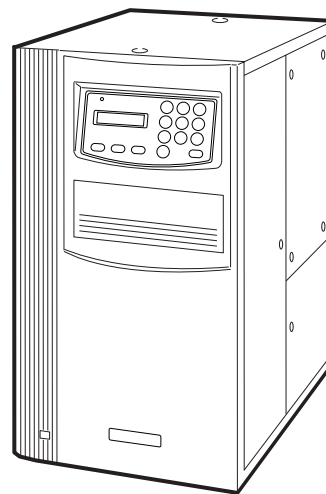
## CD/DVD ライブラリー

# 型名 MC-9100

# 取扱説明書

MC-9100

**お買い上げありがとうございます。**

ご使用の前にこの**「取扱説明書」**と別冊の「安全上のご注意」をお読みのうえ、正しくお使いください。特に**「安全上のご注意」**は必ずお読みいただき、安全にお使いください。お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときお読みください。

製造番号は品質管理上重要なものです。お買い上げの際は本機の側面に製造番号が正しく記されているか、またその製造番号と保証書に記載されている製造番号が一致しているかをお確かめください。

私たちは環境・資源をたいせつにしています。
この取扱説明書は再生紙（100%）を使用しています。

LST0169-001C

# 取扱説明書

このたびは
ビクターCD/DVDライブラリー
**MC-9100**を
お買い上げいただき
ありがとうございます。

## 特　長

CD/DVDライブラリー**MC-9100**は、情報ネットワーク時代の新しいニーズに応える大容量かつ高速アクセス、業務用にも安心してご使用いただける高信頼・高耐久性を備えたディスクチェンジャーです。

**■大容量**
100枚の光ディスク*[1]（12 cm）を収納できます。

**■両面ディスク対応**
オプションキャリア*[3]の追加により両面ディスクにも対応できます。

**■４×ドライブベイ**
ドライブベイを４スロット装備し、ドライブ*[2]を最大４台まで搭載可能です。

**■高速インターフェイス**
インターフェイスにLVD　SCSIを採用し、外部ケーブル最大10 mに対応します。また、データ転送速度も高速化しました。*[4]

*[1] 対応するメディアは搭載するドライブによって異なります。詳しくはオプションドライブの取扱説明書をご覧ください。
*[2] 対応しているオプションドライブは31ページの仕様をご覧ください。
*[3] **MC-CF10**：オプションキャリア
*[4] データ転送速度は、搭載するドライブによって異なります。詳しくはオプションドライブの取扱説明書をご覧ください。

**ご注意**
**この装置にはドライブが搭載されていません。ご使用になる前にオプションドライブを組み込んでください。ドライブ搭載追加・交換後は、22ページのドライブ自動判別モードを必ず実行してください。トラブルの原因となります。**

**ご注意**
**この装置は、輸送用に内部メカニズムのロックおよび保護材が取り付けられており、ご使用の際にはロック解除および保護材の取りはずしを行う必要があります。**
**この取扱説明書の該当部（→9～11ページ）の説明にしたがって、解除および取りはずし作業を行ってください。**

**ご注意**
**この装置のマガジンとCD-ROM/DVD-RAMライブラリーMC-1000/2000/7000シリーズのマガジンとはトレーの互換性がありません。故障の原因となりますのでこれらのシリーズとの間でマガジンや、トレーの交換は行わないでください。**

**ご注意**
**搭載するオプションドライブに対応していないメディアをこの装置で使用しますと、トラブルの原因となりますので必ずオプションドライブの取扱説明書をご覧になり、対応するメディアをお使いください。**

**ご注意**
**ドライブを4台搭載する場合には使用環境温度5℃～30℃でご使用ください。**



# パッケージの内容

パッケージの内容は以下の通りです。開梱の際に必ずご確認ください。

| ア　イ　テ　ム | 数 量 | ア　イ　テ　ム | 数 量 |
|---|---|---|---|
| 本体 | 1 | 安全上のご注意 | 1 |
| ドア開閉用キー | 2 | ビクターサービス窓口案内 | 1 |
| 本体用電源コード（2.5 m） | 1 | 保証書 | 1 |
| 電源コードフック | 1 | 取扱説明書（本書） | 1 |

# 目　次

# 1. ご注意

## ■安全上のご注意

安全に正しくお使いいただくために、別冊の「安全上のご注意」をよく読んでからご使用ください。

## ■設置および取り扱い上のご注意

### ① 輸送用ロックの解除について

- 電源を入れる前に必ず輸送用ロックの解除および保護材の取りはずし作業を行ってください。そのまま電源を入れると故障の原因になります。

### ② 設置場所について

- モーター，エンジン，スピーカーなど振動源のそばに設置しないでください。この装置の性能に支障をきたす場合があります。
- 設置場所にこの装置を固定する場合は、オプションユニットの増設および交換、メンテナンス等の作業に必要なスペースを考慮の上、設置されることをお勧めします。詳しくはお買い上げの販売店またはビクターサービス窓口にご相談ください。
- 放射線やX線、および腐食性ガスの発生する場所には設置しないでください。誤作動や故障の原因になります。
- 振動の少ない水平な場所に設置してください。

### ③ 露つき現象について

- 装置を長時間冷えきった状態にして急に暖かい室内に持ち込んだり、急に室温を上げたりすると、内部の可動部、光ピックアップおよびディスク等に露が生じ、動作しなくなるときがあります。2～3時間待ってから使用してください。

### ④ 他機器への受信障害について

- ラジオ、テレビ、FMチューナーやBSチューナーなどの電波受信機の近くでご使用になると、受信障害の原因になることがあります。

### ⑤ 強い電波環境下でのご使用について

- 違法電波または放送局の近くの強い電波環境下では誤動作するときがあります。この場合は最寄りのビクターサービス窓口にお問い合わせください。

### ⑥対応メディアについて

- この装置が対応するメディアにつきましては、搭載するドライブによって異なりますので、詳しくはドライブの取扱説明書をご覧ください。

### ⑦使用環境について

- この装置は、防塵に対して考慮した設計をしておりますが、完全な防塵構造ではありません。よって、油煙、たばこの煙やほこりの多い環境下で長時間ご使用になられた場合には、ドライブのレンズやディスクにほこりが付着し、正常に動作しなくなります。これらの、環境下での使用は避けてください。また、ほこりの多い環境下で使用しなければならない場合は早めに「保守・定期点検」の実施をお願いします。（➡ 裏表紙）
- 適切な温度、湿度以外でご使用になられますと、ドライブの寿命等が著しく劣化する恐れがあります。適切な環境下でご使用ください。

### ⑧バックアップのお願い

- この装置の使用、または故障により生じたデータの消失ならびに、その他直接、間接の損害につきましては、当社は一切の責任を負いかねます。重要なデータに関しては、万一に備えてバックアップを行うようお願いいたします。
- 24時間連続やシステムを止めることが出来ないようなシステム等にこの装置をご使用になられる場合は、バックアップシステムなどシステム上での冗長設計をお願いします。

### ⑨分解は絶対しないでください。

- 火災や感電の恐れがあります。この装置や内蔵のドライブの分解や、改造は絶対にしないでください。

### ⑩クリーニング

- この装置をクリーニングする場合、溶剤（シンナー、ベンジン等)、研磨剤を含むクリーナ、静電気防止剤などを付けた布や、シリコンクロスは絶対に使用しないでください。変色の恐れがあります。
- 中性洗剤を染み込ませてよく絞った布でクリーニングしてください。

### ⑪天面に物をのせないでください。

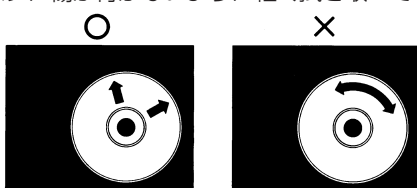
- 故障や事故の原因となります。この装置の天面に物をのせたり、上に乗ったりしないでください。

## ■ディスクの取り扱い上のご注意

ディスクは、傷のつき易いプラスチックでできています。傷がついたり、汚れたりしますと正しくデータを読めなくなるなど、トラブルの原因になりますので、傷・汚れ・ゴミ・ホコリの付着・反り等に注意してディスクを取り扱ってください。

### ① ディスクの反射面（データ面）は直接手で触れないでください。特に両面ディスクをお使いの際はご注意願います。

### ② 付着したホコリや汚れ等を除去する際は、市販のCDクリーナー等を使用してください。

- ディスクに傷が付かないように軽く拭き取ってください。

※ 必ず中心から外側へ

（必ず中心から外側へ向かって拭いてください。円周方向には拭かないでください）

### ③ 薬品等を使用しないでください。

- CDクリーナー付属のクリーニング液以外の溶剤類は絶対に使用しないでください。
- レコードクリーナー液、ベンジン、アルコール、静電気防止剤は絶対に使用しないでください。

### ④ レーベル面にも傷をつけないでください。

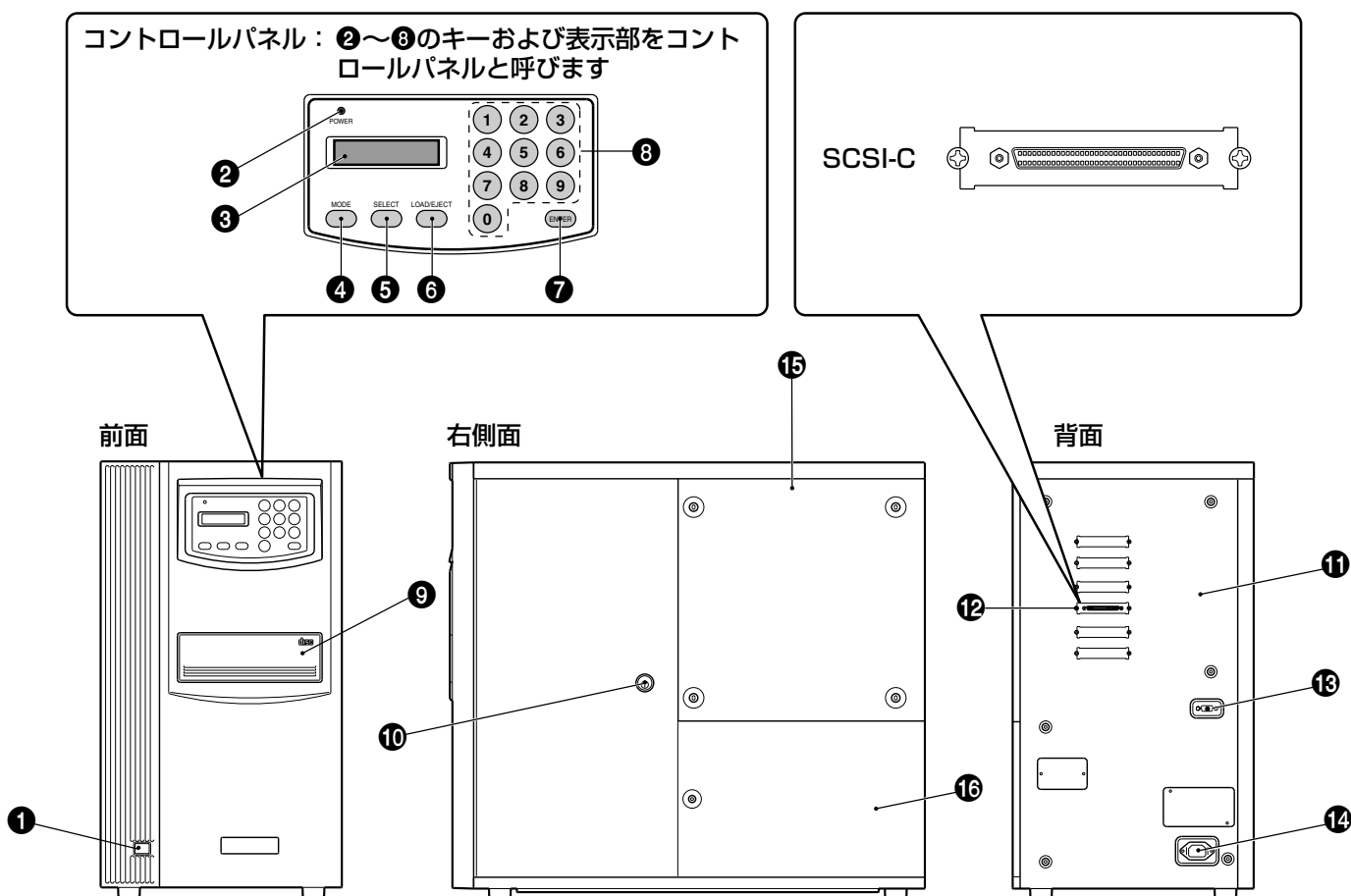
- レーベル面の傷もすぐ下のデータ面に影響します。
- 紙や粘着テープ等を貼らないでください。
- レーベル面に文字の書き込みをする時は、油性フェルトペンを使用してください。ボールペン、鉛筆等の先の硬いものは使用しないでください。

### ⑤ 定期的にディスク清掃を行うことをお勧めします。

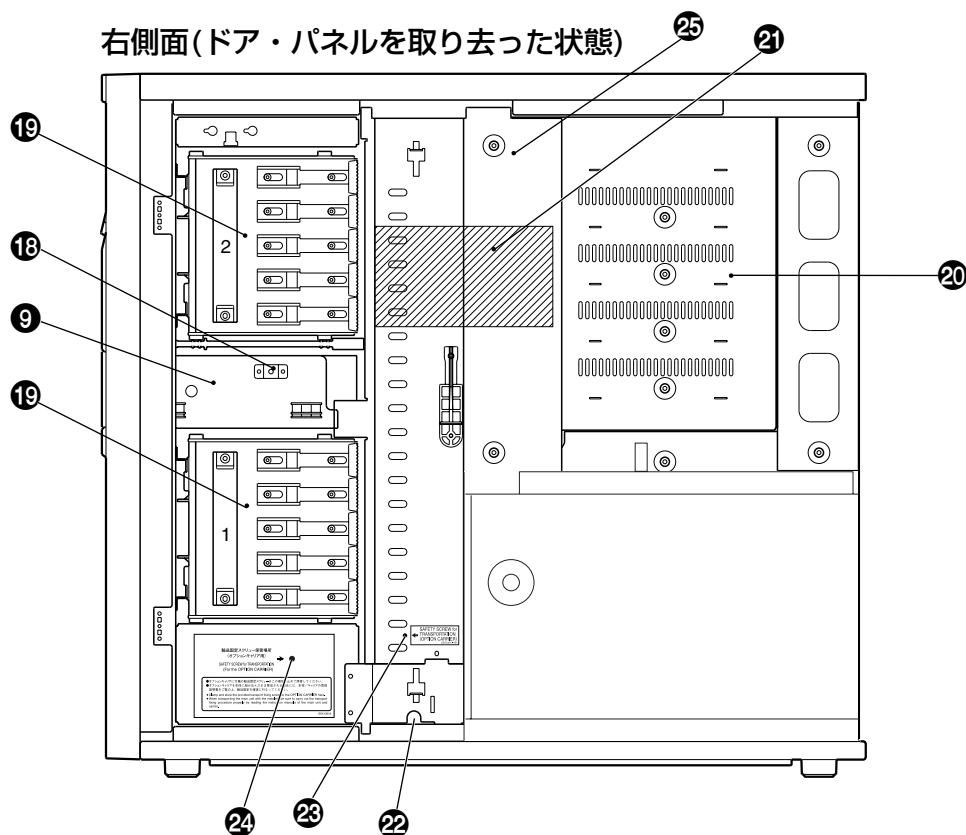
- 設置環境およびディスクの取り扱い方によっては、清掃が必要な場合があります。

# 2. 各部の名称と機能

## 2.1 前面・右側面・背面

❶電源スイッチ ........................ 本体の電源を入／切します。『I:入』『O:切』
❷インジケーター.................... 電源スイッチが『入』状態で点灯します。動作中にトラブルが発生した場合は点滅します。
❸LCD表示部 .......................... 英数字により各種情報を表示します。
❹MODEキー .......................... LCD表示部のページ選択および各種操作に使用します。
❺SELECTキー ...................... 上記選択ページの表示切り換えおよび各種操作に使用します。
❻LOAD/EJECTキー ............. メールスロットのオープン／クローズ動作を行います。
❼ENTERキー.......................... LCD表示部のページ選択および各種操作に使用します。
❽テンキー................................ インポート/エクスポート時のトレーNo.やチェンジャーSCSI-ID No.の選択時等に使用します。
❾メールスロット.................... ディスクの出し入れを行います。
❿キーシリンダー.................... ドアオープンモード完了後、ドア開閉用キーを差し込み、左に回すとドアを開けることができます。
⓫リアパネル ........................... ドライブユニットの搭載・交換時に開閉します。
⓬SCSIコネクター ................. SCSI用コネクターポートです。1系統が標準装備されています。
⓭RS-232Cコネクター ........ メンテナンス用9ピンD-subコネクター（プラグ）です。
⓮ACインレット（本体） ..... 付属の電源コードを差し込み、AC100V 50Hz/60Hzのコンセントに接続します。
⓯サイドパネル（ドライブ部） .............. ドライブユニットの搭載・交換時に開閉します。
⓰サイドパネル ....................... サービス時に取りはずします。

## 2.2 内部

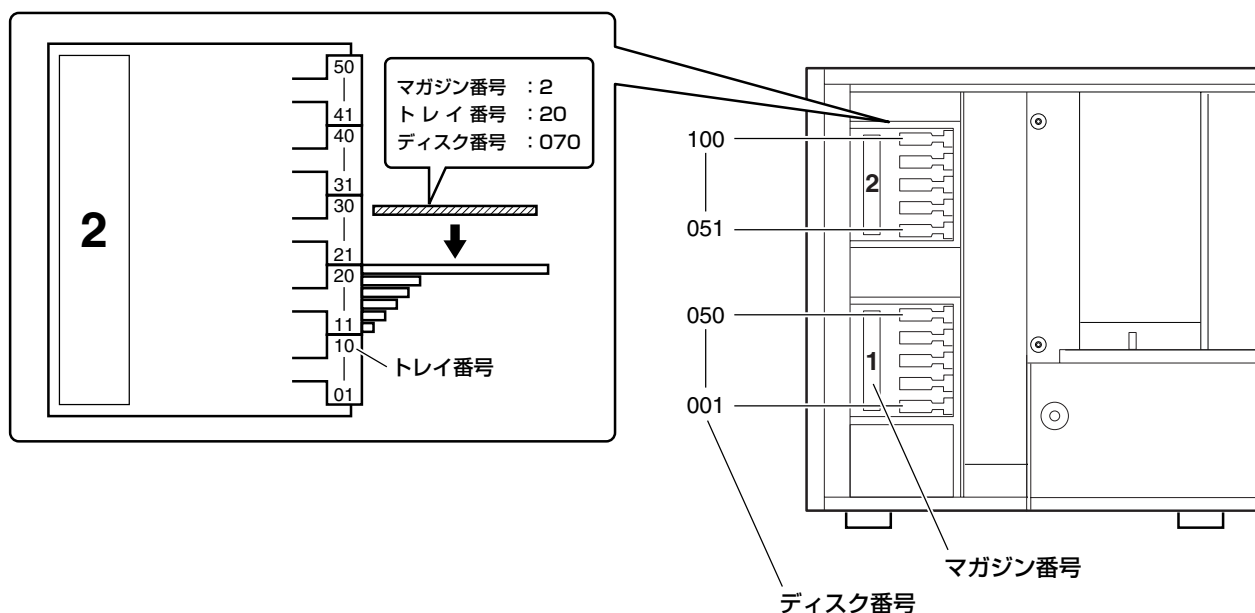
| | |
|---|---|
| **❾メールスロット** | ディスクの出し入れを行います。 |
| **⓲メールスロット輸送用ロック部** | 輸送時にメールスロットを固定します。 |
| **⓳マガジン** | 1つのマガジンに50枚のトレイがセットされています。50枚のディスクを収納できます。 |
| **⓴ドライブベイ** | 当社ライブラリー対応各種ドライブユニットを4 台セットできます。ベイ番号は下から1, 2, 3, 4 です。 |
| **㉑キャリア** | マガジン～メールスロット，ドライブユニット間のトレイ（ディスク）の搬送を行います。 |
| **㉒キャリア輸送用ロック部** | 輸送時にキャリアを固定します。 |
| **㉓オプションキャリア輸送用ロック部** | オプションキャリア**MC-CF10**搭載の場合、輸送時に固定します。 |
| **㉔輸送固定スクリュー保管場所**（オプションキャリア用） | オプションキャリア**MC-CF10**に付属の輸送固定スクリューは、この場所に止めて保管してください。 |
| **㉕センターパネル** | メンテナンス時などではずします。危険なので通常ははずさないでください。 |

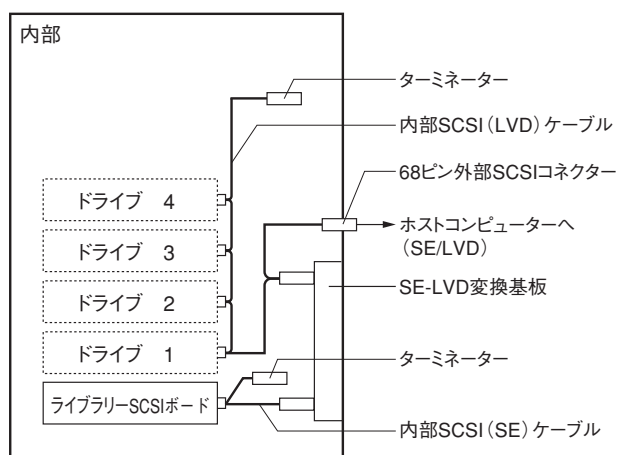
- キャリアによるマガジン～メールスロット，ドライブユニット間のトレイ（ディスク）の搬送系を総称して「チェンジャー」と呼びます。

## 2.3 マガジン番号・トレイ番号・ディスク番号

マガジンの内部配置とマガジン・トレイ・ディスクの各番号を説明します。

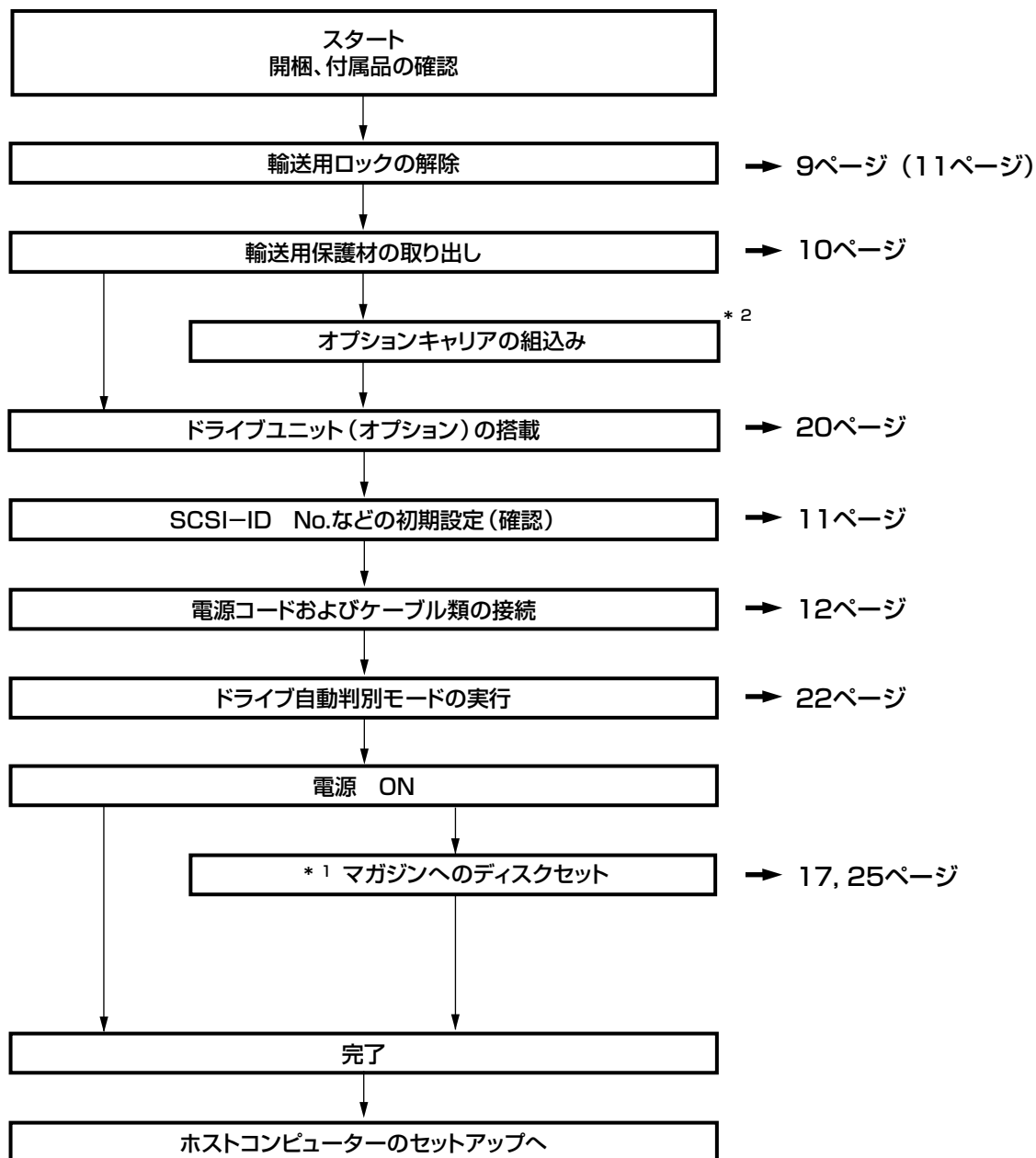
■ **マガジン番号**　：2セット装備されたマガジンの番号を表します。不完全に挿入された際にお知らせするトラブルメッセージでは、このマガジン番号を表示します。（➡ 24ページ）

■ **トレイ番号**　：各マガジン内の50枚のトレイの下から何番目かを2桁の数字で表します。マガジン番号と組み合わせてディスク番号に対応し、例えば、ディスク番号が070であれば、マガジン番号2・トレイ番号20、すなわちマガジン2の下から20段目と言い換えることができます。

■ **ディスク番号**　：全てのマガジンとトレイに対して、マガジン1のトレイ番号01から通しで001から100を3桁の数字で表します。トラブルメッセージでお知らせするディスク番号は、この番号を表示します。（➡ 27ページ）

## 2.4 内部SCSIケーブル

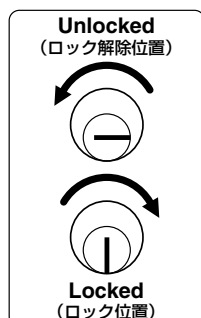
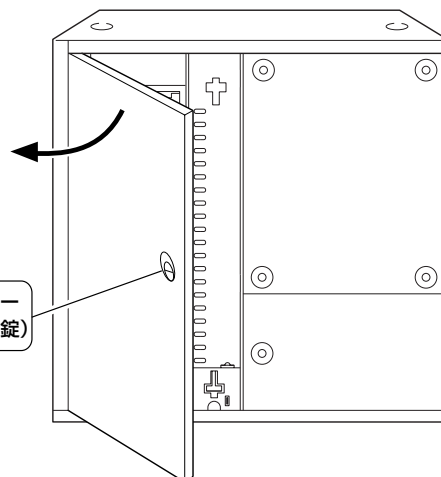
本体(チェンジャー)内のSCSI接続を説明します。
チェンジャーをコントロールするSCSIボードとドライブユニットは内部SCSIケーブル、SE(Single Ended)-LVD(Low Voltage Differential)変換基板によりディジーチェーン接続されます。内部SCSIケーブルの長さは約1.0mです。

- 未使用のコネクターにつきましては、ショート防止のため、コネクターキャップを付けたままご使用ください。
- チェンジャー内部 SCSI ケーブルの物理的な終端位置は**ターミネート**されています。

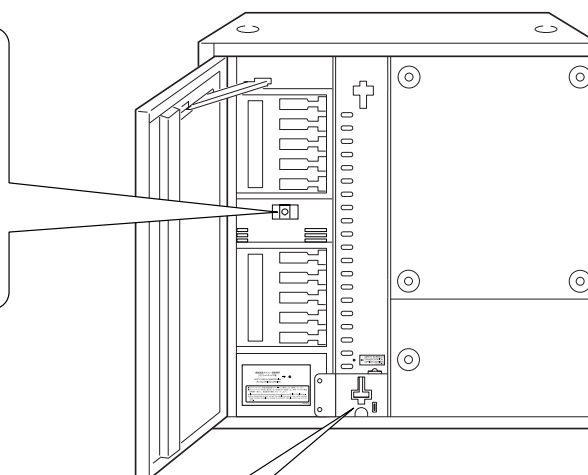
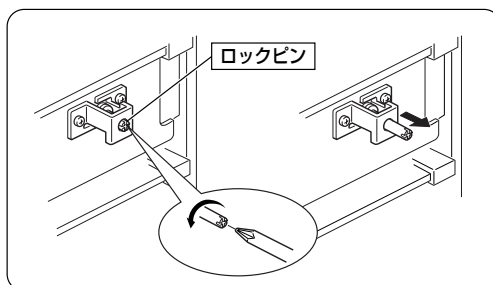
# 3. セットアップ

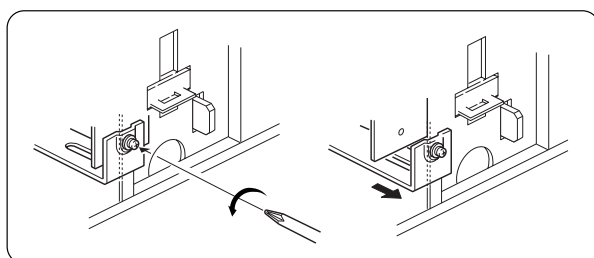
標準のセットアップ手順を示します。次の手順にしたがってセットアップを行ってください。

＊1　大量のディスクを短時間でセットすることができます。

＊2　お買い上げの販売店または**ビクターサービスセンター**におまかせください。

## 3.1 輸送用ロックの解除

***1.*** ドア開閉用キーをシリンダーに差し込み、左に回して（90度）ロックを解除し、ドアを開ける。

***2.*** メールスロットのロックを解除する。

- ドライバーで左に回すとロックピンがはずれて手前に移動します。

***3.*** キャリアのロックを解除する。

- 固定している金具がはずれて手前に移動するまでスクリューを左に回して緩めます。

**ご注意**

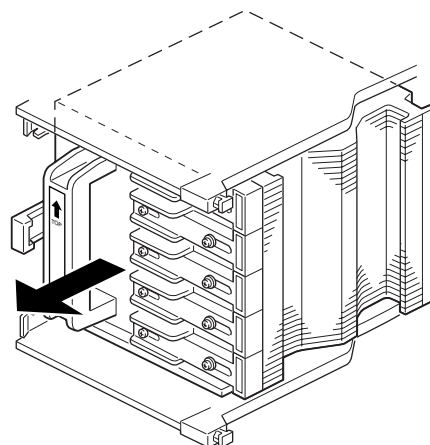
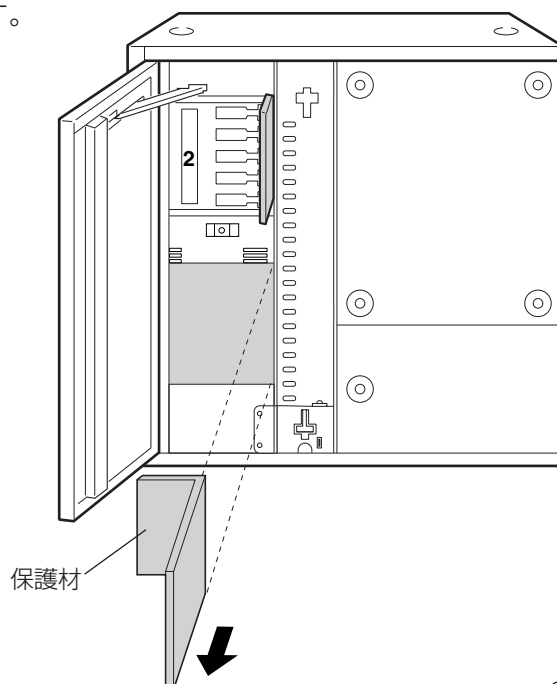
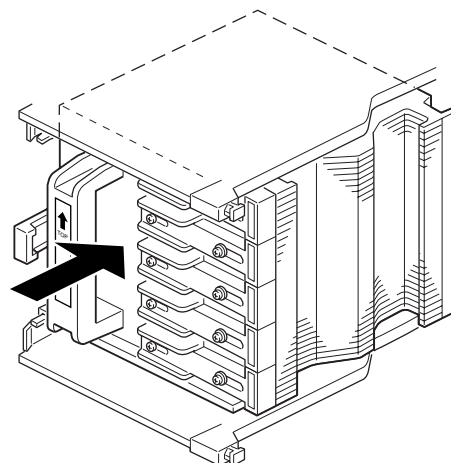
オプションキャリア**MC-CF10**をご使用の際は11ページ**3.3オプションキャリアの輸送用スクリューの取りはずし**をご覧になり、作業を行ってください。

ドアを開けたまま、次ページの作業に進んでください。

- 再輸送する場合は、以下の手順に従って輸送用ロックを行ってください。
  1. ディスクを全て取り出し、電源を切る。
  2. テンキーの1を押しながら電源を入れる。（パッキングモードを実行）
  3. LCD表示部に**END**が表示されたら電源を切る。
  4. 上記 ***2. 3.*** の輸送用ロックを固定する。
  5. オプションキャリア**MC-CF10**をご使用の際は、11ページの**3.3オプションキャリアの輸送用スクリューの取りはずし**をご覧になり、作業を行ってください。
  6. 輸送用保護材を取り付ける（➡10ページ参照）

## 3.2 輸送用保護材の取りはずし

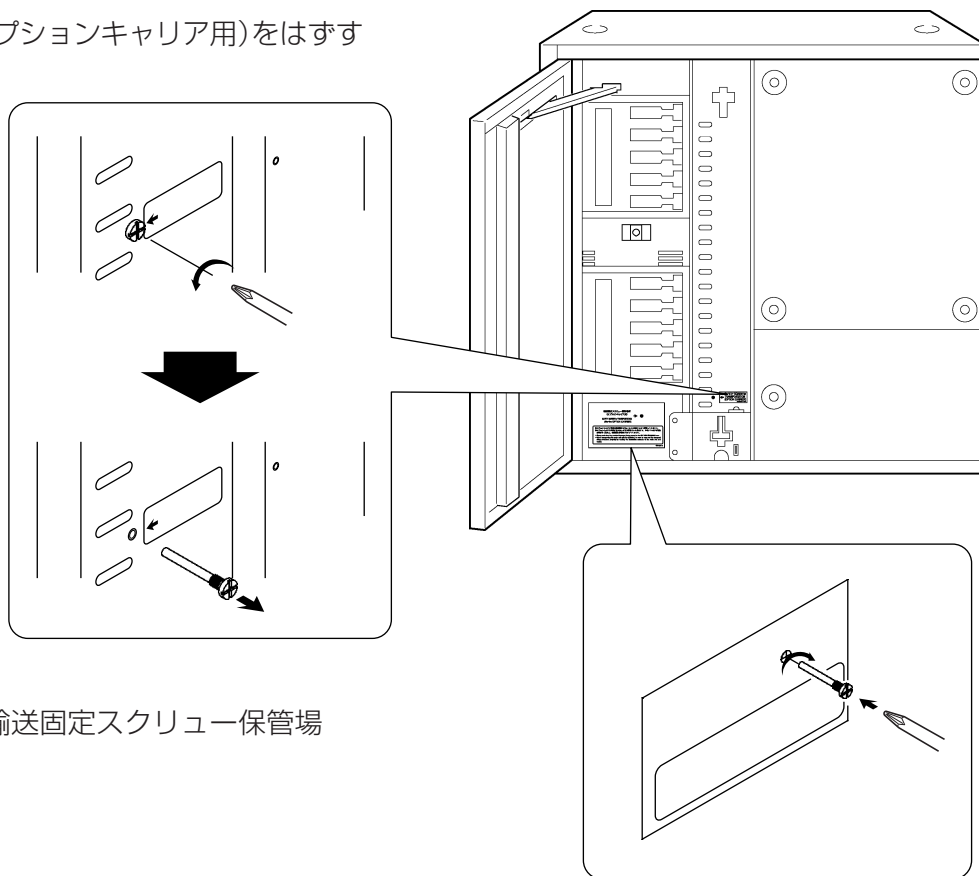
輸送用ロックの解除に引き続きドアを開けた状態で以下の作業を行います。

***1.*** マガジン番号1のマガジンを取り出す。
(➡ 24ページ **9.1 マガジンの取り出し・装着** 参照)

***2.*** 保護材を手前に取り出す。

***3.*** マガジン番号1のマガジンを装着する。
(➡ 24ページ **9.1 マガジンの取り出し・装着** 参照)

***4.*** マガジン番号2のマガジンについて、同様の作業を繰り返す。

- 再輸送する場合は、ディスクを全て取り出して上記とは逆に輸送用保護材を取りつける必要があります。その際はお買い上げの販売店またはビクターサービスセンターにご相談ください。

## 3.3 オプションキャリアの輸送用スクリューの取りはずし

オプションキャリア**MC-CF10**が搭載されている場合は、9ページ **3.1 輸送用ロックの解除**ではずしたロック以外に専用の輸送用ロックがされていますので、以下の手順ではずしてください。

**1.** 輸送固定スクリュー(オプションキャリア用)をはずす

**2.** はずしたスクリューを輸送固定スクリュー保管場所に取り付ける

- オプションキャリア **MC-CF10** を搭載したまま再輸送される場合は、9ページ **3.1 輸送用ロックの解除**をご覧になり、パッキングモードを実行し、上記の輸送固定スクリューを固定してください。

## 3.4 ドライブの搭載、SCSI-ID No.などの設定

**1.** ドライブの搭載

ドライブを搭載します(➡20ページ　**7.ドライブユニット**参照)

**2.** SCSI-ID No.などの初期設定。

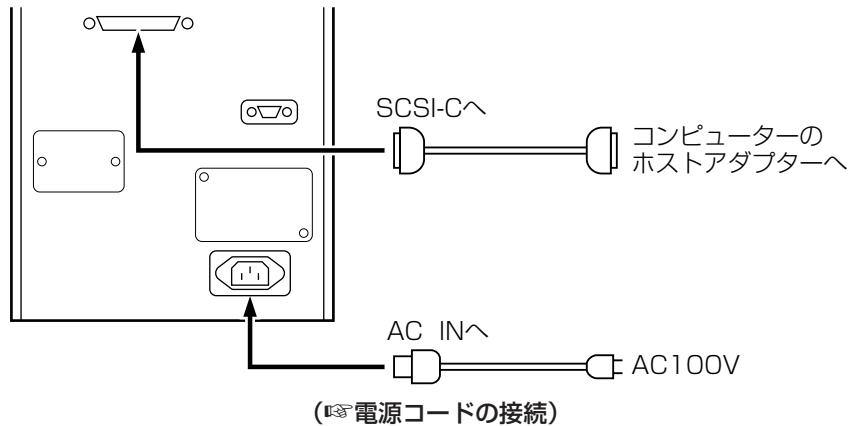
ライブラリー本体のSCSI-ID　No.の初期設定は“0”です。

ご使用になるシステムに合わせて、設定してください。

- 本体の SCSI-ID No. を変更する場合　➡ 23 ページ　**8. 本体の SCSI-ID　No. の設定**
- ドライブの SCSI-ID No. の設定　➡　搭載するドライブの取扱説明書をご覧ください。

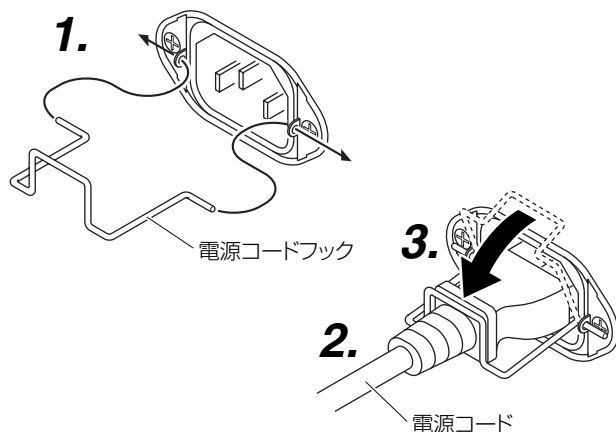
- 本体のSCSI-ID　No.を設定するには電源を入れる必要がありますので、12ページ　**3.5 電源コードおよびケーブル類の接続**をご覧の上、電源コードを接続してから行ってください。

## 3.5 電源コードおよびケーブル類の接続

電源コードおよび SCSI ケーブルは以下の様に接続します。
＊接続は、すべての機器の電源を切った状態で行ってください。電源を入れたままの状態では故障の原因となります。

**⚠ 注意**

必ず添付された電源コードを使用してください。この装置の絶縁区分はクラス1として設計されています。安全を確保するため必ずアースされた状態でご使用ください。指定以外のものを使用すると発熱し、火災、やけどの原因になることがあります。

■ **電源コードの接続**

電源コードは抜け防止のため、付属の電源コードフックを取り付けてご使用ください。

**1.** 付属の電源コードフックを取り付ける。

**2.** 電源コードを本機に接続する。

**3.** 電源コードフックを下げて電源コードを固定する。

- **この装置の内部 SCSI ケーブルの長さは 1.0 m です。**
- **内部の SCSI ケーブルと、外部の SCSI ケーブルを合わせた全長にはご注意ください。以下記載の長さを超えると動作異常を起こす場合があります。**
  1）LVD でご使用の場合：外部ケーブルの最大長は 10 m です。
  2）SE（Narrow）の場合：外部ケーブルの最大長は以下のとおりです。
  ・SCSI-2、20 Mbyte/s 同期のとき ：1.5 m（ドライブ 2 台まで）
  ・SCSI-2、10 Mbyte/s 同期のとき ：1.5 m
  ・SCSI-2、5 Mbyte/s 非同期のとき ：4.5 m
- **外部SCSIケーブルはUltra160対応のケーブルをご使用ください。他のケーブルの使用は、動作異常の原因となります。**
- **制御用コンピューターのホストアダプターは、LVD に対応したものをご使用ください。**
- **推奨 SCSI ホストアダプター、SCSI ケーブル**
  • WINDOWS サーバー
  SCSI ホストアダプター：ADAPTEC 製　ASC-29160
  SCSI ケーブル：ADAPTEC 製　ACK-LVD-3M-U320（3m）
  • SUN ワークステーション
  SCSI ホストアダプター：Antares Microsystems 製　PCI SCSI-2U3WL
  SCSI ケーブル：ADAPTEC 製　ACK-68V-68HD-LVD（2m）

**他の長さや他のメーカーのケーブルをご使用の場合は、お買い上げの販売店またはビクターサービス窓口にご相談ください。**
**推奨ホストアダプターは全てのホストコンピュータに対し動作保証するものではありません。**
**運用前に充分な動作検証をお願いします。**

# 4. コントロールパネルの操作とLCD表示

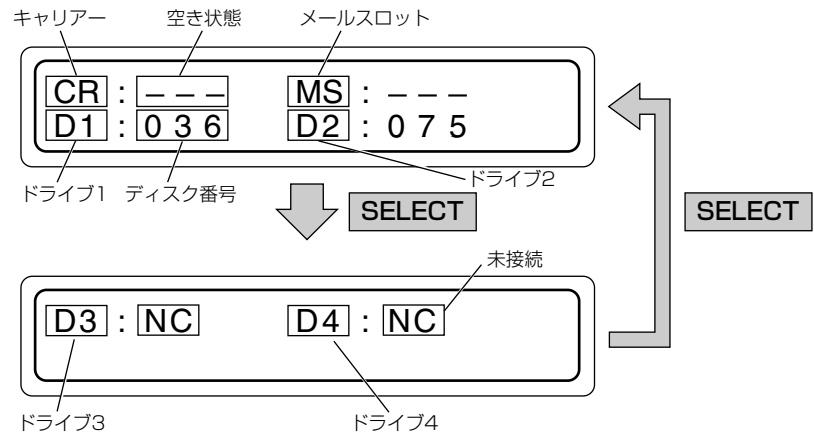
キー操作とLCD表示は、以下の3つの操作および表示系に大別されます。

■ **通常表示**　：２つのパターンがあり、正常起動後にそのうちの１つが自動的に表示されます。リアルタイムで各ユニットに存在するディスク番号を表示します。

■ **メニュー表示**　：SCSI-ID No. の確認や設定、内部履歴の表示、アクセス回数の表示、ライブラリー単独でのディスクセット、ドアオープンモードなどのユーザー操作に移行できます。

■ **イベント表示**　：起動後のイニシャライズ中やメールスロット動作、ドアオープンモードの設定中、トラブル発生などのイベントが発生した場合に優先的に表示されます。

## 4.1 通常表示

正常起動後にパターン１が自動的に表示されます。SELECTキーを押す毎に表示が変化します。

## 4.2 メニュー表示

通常表示からMODEキーを押すとメニュー表示になります。SELECTキーを押してメニューを選択後、ENTERキーで決定します。

① NORMAL DISPLAY
（➡当ページ　**4.1　通常表示** 参照）

② ERROR DISPLAY
（➡29ページ　**10.4　トラブル履歴表示** 参照）

③ ID No. DISPLAY
（➡23ページ　**8.1　SCSI-ID No. 確認表示** 参照）

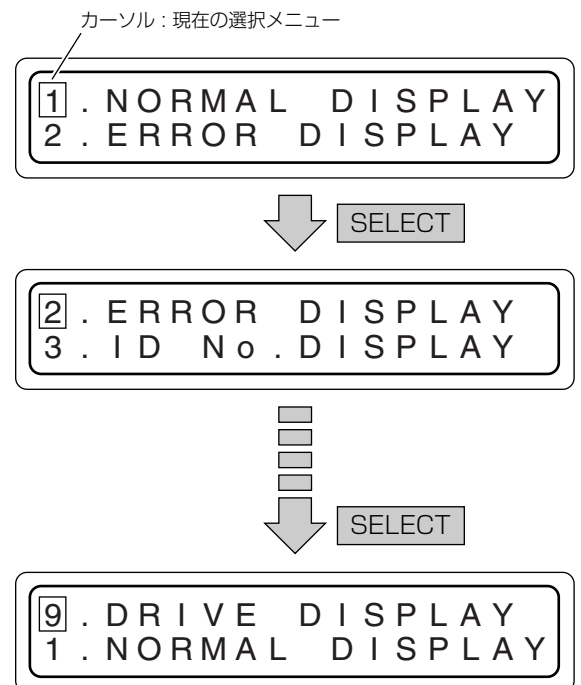
④ PANEL OPEN

⑤ DOOR OPEN MODE
（➡16ページ　**5. ドアの開閉** 参照）

⑥ ID No. SET MODE
（➡23ページ　**8. 本体のSCSI-ID No. の設定** 参照）

⑦ COUNT DISPLAY
（➡30ページ　**11. アクセスカウント** 参照）

⑧ IMPORT/EXPORT
（➡18ページ　**6.2　インポート／エクスポート** 参照）

⑨ DRIVE DISPLAY
（➡22ページ　**7.7　ドライブ種別表示** 参照）

## 4.3 イベント表示

① 電源投入時

POWER ON

② イニシャライズ中

INITIALIZING

オプションキャリア MC-CF10 搭載時

INITIALIZING
FLIP CARRIER

③ トラブル発生時（➡ 28ページ　10．2 トラブルコード一覧 参照）

ERROR OCCURRED!

交互に表示

DISC=024
CODE=CU−04

④ ドアオープンモード実行時（➡ 16ページ　5. ドアの開閉 参照）

EXECUTING DOOR
OPEN PROCESS

→

THE DOOR
CAN BE OPENED

⑤ ドアオープン時（➡ 16ページ　5. ドアの開閉 参照）

DOOR OR PANEL
IS OPEN

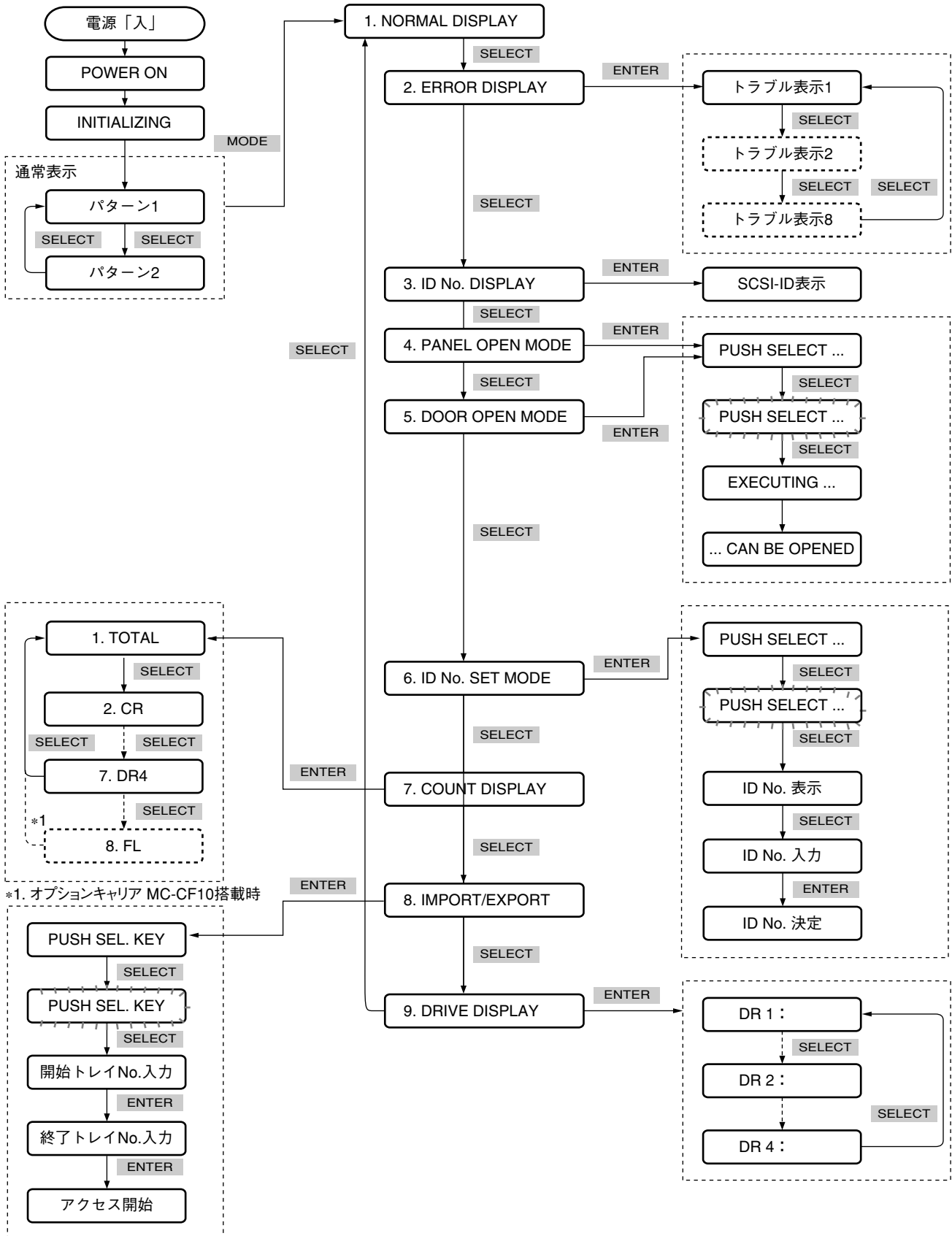
ドアクローズ →

PUSH ENTER KEY
TO RESUME

⑥ メールスロット動作時（➡ 17ページ　6. メールスロット 参照）

EXPORT DONE
PUSH LOAD KEY

## 4.4 表示及び操作のフロー

電源投入後の表示および操作のフローを示します。

- 10秒間MODEキーあるいはSELECT, ENTERキーのいずれも押されなかった場合は、「通常表示のパターン1」に戻ります。
  （イベント表示中及び、インポート／エクスポートのトレイNo.入力中とSCSI-ID No.の変更中を除く）

# 5. ドアの開閉

すでに輸送用ロックを解除して１度目の電源を入れた後は、ドア開閉用キーによるロックに加えて安全のための内部ロックが作動するため、ドア開閉用キーだけでは開けることはできません。
電源が入りの状態から、また電源が切りの状態であれば入りにして、以下の操作を行ってください。その後、ドア開閉用キーを使ってドアを開けることができます。

## ■ドアオープン

**1.** 通常表示からMODEキーを押す。
（メニュー表示にする）

```
1 . NORMAL  DISPLAY
2 . ERROR  DISPLAY
```

**2.** SELECTキーを4度押す。
（5. DOOR OPEN MODEを表示）

```
5 . DOOR  OPEN  MODE
6 . ID  No . SET  MODE
```

**3.** ENTERキーを押す。
（5. DOOR OPEN MODEを選択）

```
PUSH  SELECT  KEY
TO  OPEN  THE  DOOR
```

**4.** SELECTキーを押したまま5秒以上待つ。
（表示が点滅）

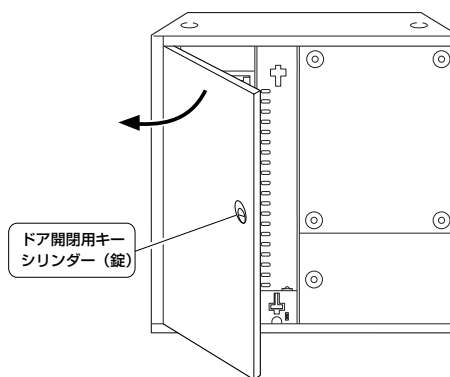
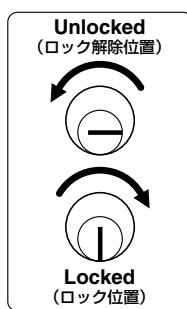
```
PUSH  SELECT  KEY
TO  OPEN  THE  DOOR
```

**5.** 実行中**(EXECUTING DOOR OPEN PROCESS)**の表示になったら、SELECTキーを離す。

```
EXECUTING  DOOR
     OPEN  PROCESS
```

※ ドライブユニットの脱着時は、完了**(THE DOOR CAN BE OPENED)**の表示後に電源を切ってください。

```
 THE  DOOR
  CAN  BE  OPENED
```

**6.** ドア開閉用キーをシリンダーに差し込み、左に回してロックを解除し、ドアを開ける。

## ■ドアクローズ

**1.** ドアを閉めて、ドア開閉用キーを回してロックする。

ドアオープン中

```
DOOR  OR  PANEL
    IS  OPENED
```

**2.** 右の表示が出たらENTERキーを押す。
●イニシャライズ動作後に通常表示に戻ります。

ドアクローズ後

```
PUSH  ENTER  KEY
TO  RESUME
```

● ドアオープンモード実行中およびドアオープン中は、ディスクの搬送動作ができなくなります。

# 6. メールスロット

## 6.1 ディスクセット

ご注意

**ディスクの出し入れは、メールスロットが完全に停止した後に行ってください。動作中に行うと、ディスクを傷つけるだけでなく、開閉中に無理な力が加わり故障の原因となります。**

### ■ディスクのセット／回収方法

ホストコンピューターからの制御またはインポート／エクスポート操作(➡18ページ)によってメールスロットにトレイが移送されると、移送完了時にメールスロットが自動的にオープンします。

```
EXPORT DONE
PUSH LOAD KEY
```

ご注意

ディスクは、ディスク表面に付着したホコリや指紋、傷などにより記録／再生ができなくなる場合がありますので、取り扱いには十分ご注意ください。
DVD-RAM/Rディスクは特に傷や汚れに弱いのでご注意ください。

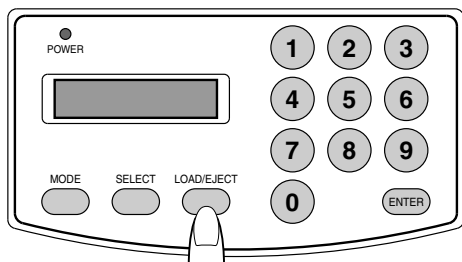
**1.** ディスクのレーベル面を上にして、トレイへ静かにセットする。
（取り出す場合は、センターホールと手前の切り欠き部を利用して持ち上げる）

ご注意

対応しているメディアは搭載しているドライブによって異なります。
詳しくはドライブの取扱説明書をご覧ください

ご注意

両面ディスクをご使用の場合にはレーベル面がありませんので、取り扱いに十分ご注意ください。

**2.** LOAD/EJECTキーを押す。
（メールスロットがクローズする）

- この後、メールスロットからの移送が開始されるまでは、LOAD/EJECT キーを押すたびに、オープンとクローズを繰り返すことができます。
- キャリアの動作中は、LOAD/EJECT キーを押してもオープン、クローズ動作はできません。

ご注意

- **ラベルを貼ったディスクや破損変形したディスクを絶対に使用しないでください。故障の原因となります。**
- **本機から取り出したディスクを他のドライブでご使用になる場合は、ドライブの仕様を確認の上ご使用ください。**
  **（他のドライブで記録、消去したディスクは、本機で再生できない場合があります）**
  **（本機から取り出したディスクが再生できないドライブがあります）**
- **両面ディスクをご使用の場合、表裏の区別ができないディスクもありますので、本機から取り出す場合や本機にデータの記録されたディスクを入れる場合はご注意願います。**
- **１枚のトレイにディスクを２枚セットしないでください。２枚以上のディスクを１枚のトレイにセットすると故障の原因となります。**

## 6.2 インポート／エクスポート

ホストコンピューターの操作を行わずに、メールスロットから任意のトレイにディスクセットまたはディスク回収動作を行う場合は、以下の手順で行います。

●インポート／エクスポート実行中は、ホストコンピューターからのキャリアー動作を伴う命令は実行できません。

**1.** 通常表示からMODEキーを押す。
（メニュー表示にする）

```
1.NORMAL DISPLAY
2.ERROR DISPLAY
```

**2.** SELECTキーを7度押す。
（8. IMPORT/EXPORTを表示）

```
8.IMPORT/EXPORT
9.DRIVE DISPLAY
```

**3.** ENTERキーを押す。
（8. IMPORT/EXPORTを選択）

```
PUSH SEL.KEY FOR
IMPORT/EXPORT
```

**4.** SELECTキーを押したまま5秒以上持つ。
（表示が点滅）

```
PUSH SEL.KEY FOR
IMPORT/EXPORT
```

**5.** 開始番号入力画面**(INPUT START)**が表示されたらSELECTキーを離す。

```
INPUT START
 TRAY No.:---
```

**6.** 開始トレイNo.(001～100)をテンキーにより入力する。

- 誤入力した場合は、そのまま新しいトレイNo.を3桁(例:001)で入力します。

```
INPUT START
 TRAY No.:015
```

**7.** ENTERキーを押す。

```
INPUT END
 TRAY No.:---
```

**8.** 終了トレイNo.(001～100)をテンキーにより入力する。

- 1枚だけインポート／エクスポート操作を行いたいときは、終了番地として開始番地と同じ番地を入力するか、番地を入力せずにENTERキーを押します。

```
INPUT END
 TRAY No.:024
```

**9.** ENTERキーを押す。

※インポート／エクスポート動作中にENTERキーを5秒間押し続けるとその後の動作をキャンセルすることができます。キャンセル後に、メールスロットがオープンした場合は、LOAD/EJECT キーを押してください。(実行中のトレイをマガジンに返却後、インポート／エクスポート動作を終了します)

```
 IMPORT/EXPORT
 TRAY No.:015
```

**10.** メールスロットが自動的にオープンしたら、LCD表示部に表示されたトレイNo.にセットしたいディスクをトレイに載せる。(➡ 17ページ **6.1ディスクセット** 参照)

- ディスク回収の場合は、ディスクを取り出します。
- LCDに次の表示が出た場合は、メールスロットの輸送用ロックが解除されていない可能性があります。ロックピンが解除されていることを再確認してください。
  (➡ 9ページ **3.1 輸送用ロックの解除** 参照)

```
CHECK THE LOCK
PIN!
```

※ MODEキーを押すとメニュー表示に戻ります。

**11.** LOAD/EJECTキーを押す。(メールスロットがクローズし、トレイを返却する)

**12.** 連続してインポート/エクスポート動作を行う場合は***10***,***11***の作業を繰り返す。
(LCD表示のトレイNo.が順次変わります)

- トレイがマガジン内にない場合(ドライブ内に残っている場合を含む)は、そのトレイNo.をLCD表示部上に表示してインポート/エクスポート動作を終了します。

```
   NO TRAY
TRAY No.:015
```

※ MODEキーを押すとメニュー表示に戻ります。

**以下の場合は、インポート/エクスポート動作には移行せず、LCD表示部に右のように表示されます。**

**ホストコンピューター側で下記の状態をクリアしてから再度入力してください。**

- **メールスロット内にトレイが残っている場合。**
- **キャリアーが動作実行中の場合。**
- **ホストコンピューターからインポート/エクスポートを禁止されている場合。**

```
IMPORT/EXPORT
 IS PROHIBITED
```

- **インポート/エクスポート動作により、本体(チェンジャー)内のディスク有無の状態が変化した場合,あるいはディスク内容が変化した場合は、原則としてホストコンピューター側のディスク有無情報を更新する必要があります。**

# 7. ドライブユニット

ご注意

・ドライブユニットの脱着、接続および各種設定は、必ず電源を切った状態で行ってください。
電源を入れたままの状態では故障の原因となります。また、これらの作業は、必ずドライブユニットの取扱説明書をご覧の上行ってください。

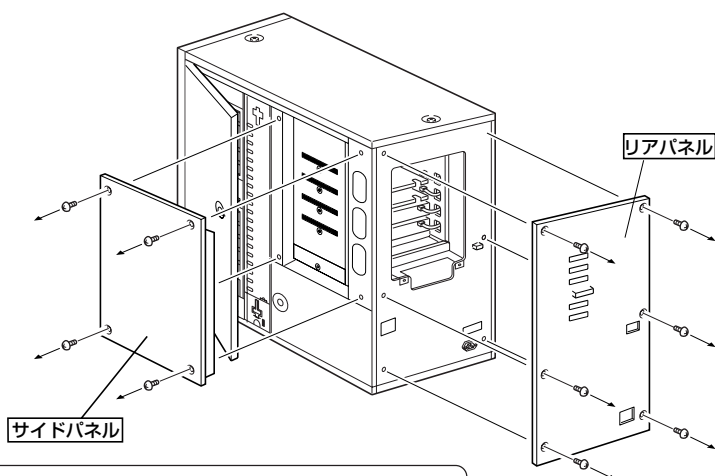
・2種類以上のドライブを搭載（混載）する場合、対応していないデバイスドライバーもありますので、お買い上げの販売店またはビクターサービス窓口にお問い合わせください。

## 7.1 パネルの取りはずし

**1.** ドアを開ける。(➡ 16ページ　**5. ドアの開閉** 参照)

**2.** 電源を切る。

**3.** リアパネルを取りはずす。

- スクリュー6本をはずします。
- ドライブユニット側のコネクターからSCSIケーブルを引き抜きます。(➡ 21ページ　**7.4 ケーブルの接続** 参照)
- ＳＥ-ＬＶＤ変換基板のコネクターから、内部ＳＣＳＩ(SE)ケーブル(50P)と、LVD電源ケーブル(6P)2本を引き抜きます。

ご注意

**リアパネルと本体は、ケーブルで接続されています。リアパネルの取り付け、取りはずしは、ケーブル、コネクターに負荷がかからないよう行なってください。**

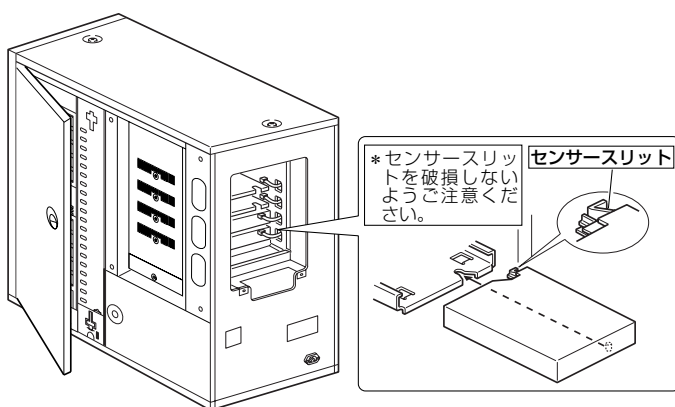
**4.** サイドパネルを取りはずす。

- スクリュー4本をはずします。

## 7.2 ドライブユニットの装着

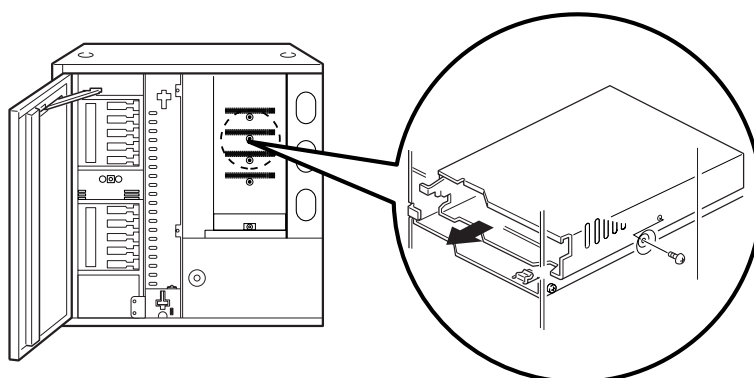
● 取りはずしの場合は、先に制御ケーブルおよび電源ケーブルをはずしてください。(➡ 21ページ　**7.4 ケーブルの接続** 参照)

**1.** ドライブユニットを挿入する。

- 必ずベイNo.の小さい順(下から)に装着してください。
- ケーブル類をはさみ込まないようにご注意ください。
- センサースリットを破損しないようご注意ください。

**2.** ドライブユニットを専用スクリューで固定する。

- 専用スクリューは、オプションドライブユニットに添付されています。

ご注意

**このスクリューは確実に取り付けてください。スクリューがない状態で動作させると、ライブラリー本体及びドライブ破損の原因となります。**

## 7.3 SCSI-ID No.などの設定

- ドライブユニットの SCSI-ID No．などの設定方法は、各ドライブユニットの取扱説明書の該当部をご覧ください。
- 必ず電源を切った状態で行ってください。電源を入れたままの状態では故障の原因となります。
- 設定された ID No. は、次回の電源投入時より有効になります。
- 設定する ID No. は、同一バス上の他の SCSI 機器の ID No. と重複することはできません。
- ID No. は 0 ～ 7 でご使用ください。8 ～ 15 は使用できません。

## 7.4 ケーブルの接続

- **オプションドライブの各ケーブルに対応するコネクター位置は、各ドライブの取扱説明書をご覧ください。**

**1.** 制御ケーブル（14P）を接続する。

- ドライブベイの番号と同じ番号の制御ケーブルを接続してください。

**2.** 電源ケーブル（4P）を接続する。

（図は**MC-R434**の場合）

**3.** SE-LVD変換基板にLVD電源ケーブル（6P）2本を接続する。

- 2 本同じコネクターになっています。どちらに接続しても問題ありません。

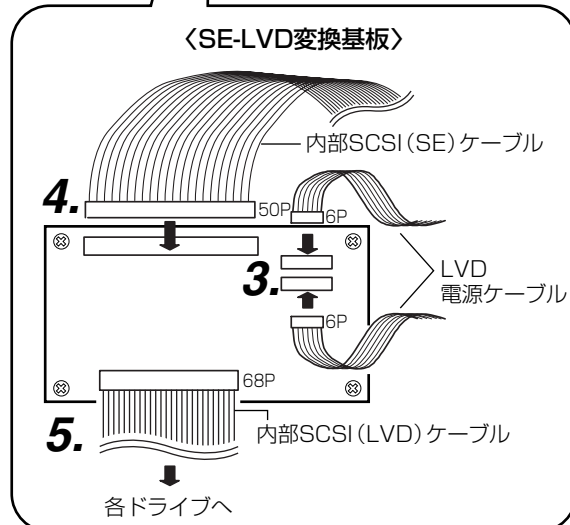
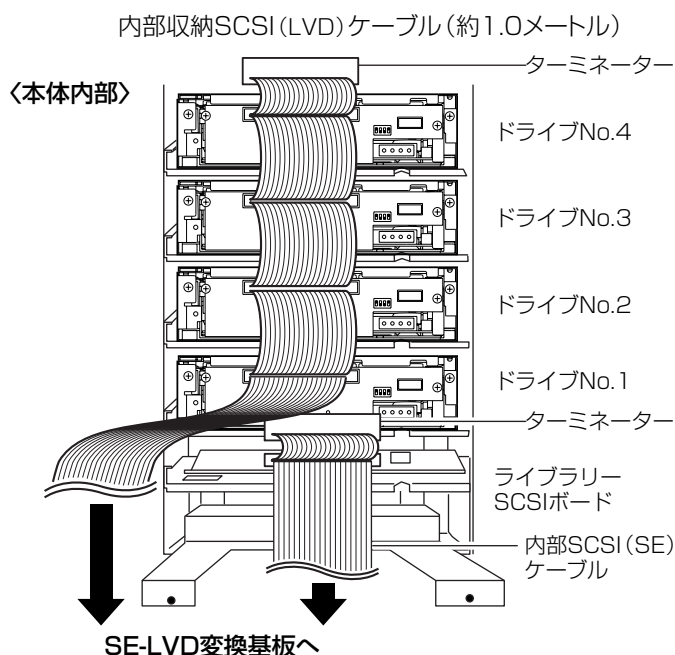
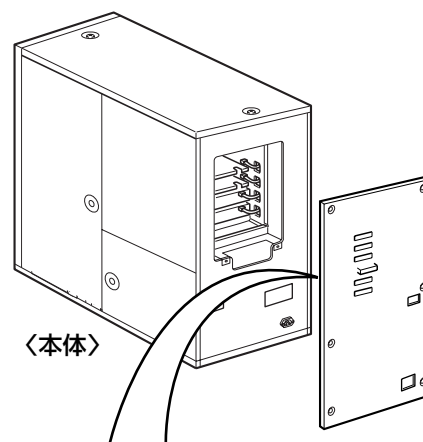
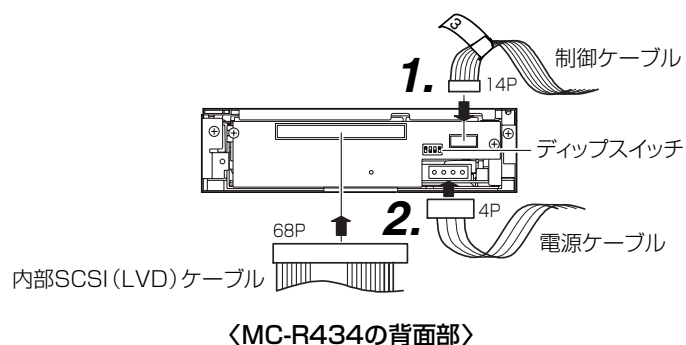
**4.** 内部SCSI（SE）ケーブル（50P）をSE-LVD変換基板に接続する。

- 内部SCSI（SE）ケーブルは本体のライブラリーSCSIボードに接続されています。

**5.** 内部SCSI（LVD）ケーブル（68P）を各ドライブへ接続する。

- 内部 SCSI（LVD）ケーブルは SE-LVD 変換基板に接続されています。

〈MC-R434の背面部〉

内部収納SCSI（LVD）ケーブル（約1.0メートル）

## 7.5 パネルの取り付け

**1.** リアパネルおよびサイドパネルを取り付ける。
- **7.1 パネルの取りはずし**と逆の手順でスクリューを取り付けます。

**2.** ドアを閉める。
（➡ 16ページ　**5. ドアの開閉** 参照）

**ご注意**
- **パネルの取り付け前にドライブユニット取り付けスクリューおよびケーブル類の接続を再確認してください。接続が不十分な場合、故障の原因となります。**

## 7.6 ドライブ自動判別モード

**1.** コントロールパネルの“8 ”キーを押しながら本体の電源を入れる。

**2.** LCD表示部に「DRIVE DETECTION COMPLETED」が表示されたら本体の電源を切る。

**3.** 再度本体の電源を入れる。

**ご注意**
- **ドライブの搭載、追加、交換、取りはずしを行った際は、動作不良の原因となりますので、必ずドライブ自動判別モードを実行してください。**

## 7.7 ドライブ種別表示

内蔵されているドライブの種別を確認します。

**1.** 通常表示からMOODキーを押す（メニュー表示）

**2.** SELECTキーを8度押す（**9. DRIVE DISPLAYを表示**）

**3.** ENTERキーを押す（**9. DRIVE DISPLAYを選択**）

**4.** 各ドライブベイに内蔵されているドライブの種別が表示されます
（SELECTキーを押す毎に次のドライブベイに表示が変化します）

```
9 . D R I V E   D I S P L A Y
1 . N O R M A L   D I S P L A Y
```

```
D R 1 : D V D − R A M
D R 2 : R O M / R   e t c
```

**表示の意味**

「DVD-RAM」　：DVD-RAM/R ドライブの時
「ROM/R etc」：DVD-RAM/R ドライブ以外のドライブの時（CD-ROM/R, DVD-ROM ドライブなど）
「NO DRIVE」　：ドライブ未接続の時
「UNKNOWN」：ドライブ判別モード未実施の時

- ドライブ自動判別モードを実施していない場合、LCD表示部に「UNKNOWN DRIVE TYPE DETECTED」が表示されます。
- 装着したドライブの種別が間違っている場合や、「NO DRIVE」「UNKNOWN」と表示された場合、ケーブルの接続忘れなどが考えられます。再度確認してください。

# 8. 本体のSCSI-ID No.の設定

本体（チェンジャー）のSCSI-ID No.の設定を変更する場合は、以下の手順で行います。

**1.** 通常表示からMODEキーを押す。
（メニュー表示にする）

```
1. NORMAL DISPLAY
2. ERROR DISPLAY
```

**2.** SELECTキーを5度押す。
（6. ID No. SET MODEを表示）

```
6. ID No.SET MODE
7. COUNT DISPLAY
```

**3.** ENTERキーを押す。
（6. ID No. SET MODEを選択）

```
PUSH SELECT KEY
TO CHANGE ID No.
```

**4.** SELECTキーを押したまま5秒以上待つ。
（表示が点滅）

```
PUSH SELECT KEY
TO CHANGE ID No.
```

**5.** 現在のID No.が表示されたら、SELECTキーを離す。

```
CHANGER
  SCSI ID No.=0
```

**6.** テンキーの0から7までのキーから新しく設定するID No.を選択して押す。

```
CHANGER
  SCSI ID No.=3
```

**7.** ENTERキーを押す。（表示中のID No.に設定される）
- 設定されたID No. は、次回の電源投入時より有効になります。

```
CHANGER ID No.
 IS SET TO 3
```

- 設定するID No. は、同一SCSIバス上の他のSCSI機器のID No. と重複させることはできません。
- ID No.は0～7でご使用ください。8～15は使用できません。
- 本機と接続するサーバーのOSがWindows 2000の場合、動作が不安定になるときがあります。より安定した動作を確保するため、本機のSCSI-ID No.を使用していない6などに設定してください。

## 8.1 SCSI-ID No. の確認表示

現在設定されている本体および装備されているドライブのSCSI-ID No. を確認することができます。

**1.** 通常表示からMODEキーを押す。
（メニュー表示にする）

```
1. NORMAL DISPLAY
2. ERROR DISPLAY
```

**2.** SELECTキーを2度押す。
（3. ID No. DISPLAYを表示）

```
3. ID No.DISPLAY
4. PANEL OPEN
```

**3.** ENTERキーを押す。
（3. ID No. DISPLAYを選択）
表示内容は以下の通りです。
CH：チェンジャー
DR1～4：ドライブ1～4（"–" は未接続を示す）

```
CH DR1 2 3 4
 0   1 2 – –
```

# 9. マガジン

**ご注意**

- **落下や衝撃等で損傷を受けたマガジンは使用しないでください。正常に動作しません。また内部のメカニズムの破損に及ぶ場合があります。**
- **この装置のマガジンとCD-ROM/DVD-RAMライブラリーMC-1000/2000/7000シリーズのマガジンとはトレーの互換性がありません。故障の原因となりますのでこれらのシリーズとの間でマガジンや、トレーの交換は行わないでください。**
- **この装置の運用中にマガジンを取り出し、装着するときは、その前にホストコンピュータ側のソフトの処理を適切に行ってください。**

## 9.1 マガジンの取り出し・装着

### ■ 取り出し

***1.*** ドアを開ける。(➡ 16ページ　**5. ドアの開閉** 参照)

***2.*** リリースレバーを手前に引く。

- マガジンが手前に少し移動します。リリースレバーとグリップの間に指をはさまないように注意してください。

***3.*** マガジンを真っ直ぐ手前に引き出す。

- マガジンをぶつけたり、落下しないようにご注意ください。
- 誤ってトレイロックに触れないようにご注意ください。トレイが飛び出すことがあります。

### ■ 装着

***1.*** マガジンの向きを確認する。

- グリップに上方向を示す「⬆.**TOP**」の表示があります。

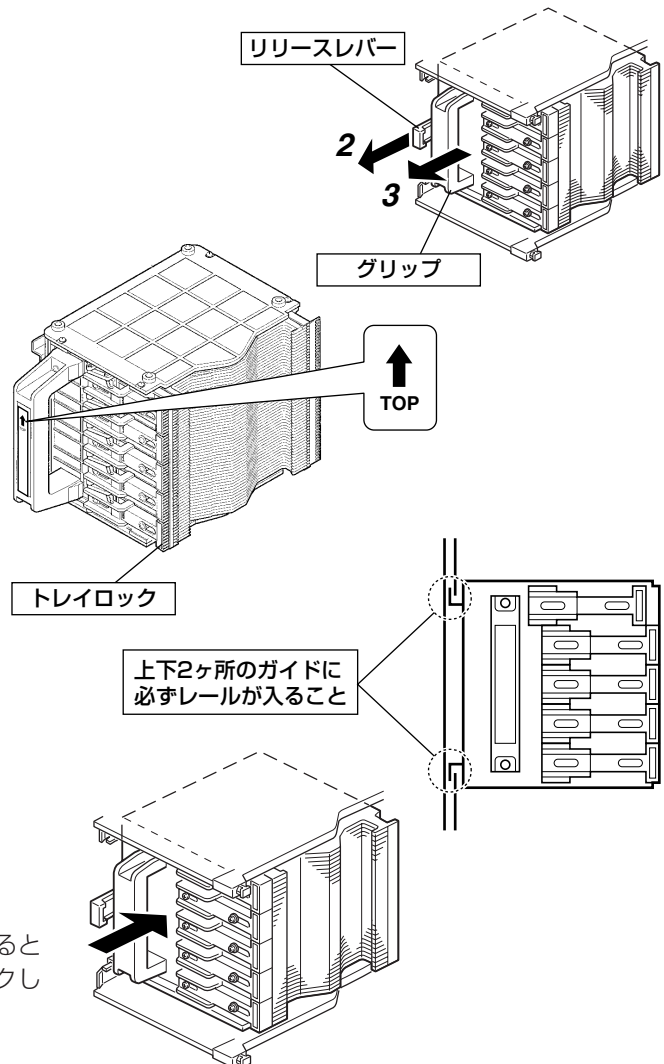
***2.*** 本体のガイドにマガジンのレールを合わせて真っ直ぐに挿入する。

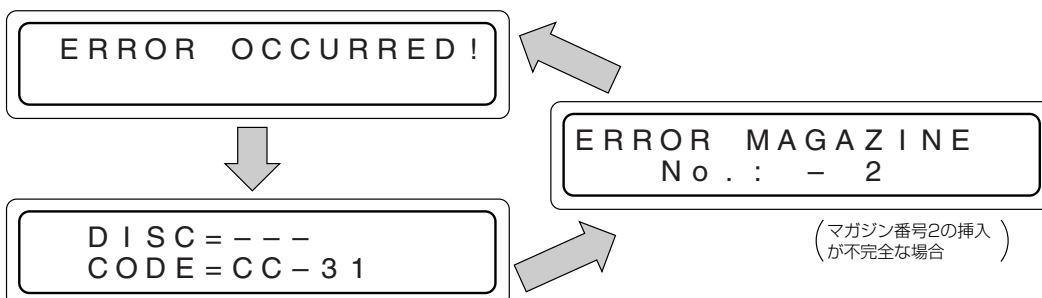
- ゆっくり押し込んでください。勢いをつけて押し込むことはおやめください。破損の恐れがあります。
- マガジンのガイドが本体左のガイド(上下2 ヶ所)に入ることを確認します。

***3.*** マガジンが完全に止まるまで押し込む。

- 手前に軽く引いてロックされていることをご確認ください。

***4.*** ドアを閉める(➡ 16ページ　**5. ドアの開閉** 参照)

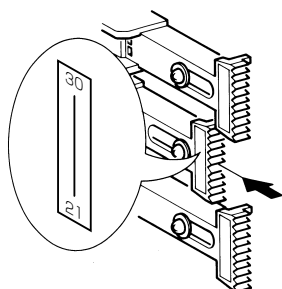
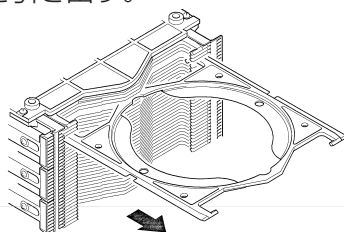
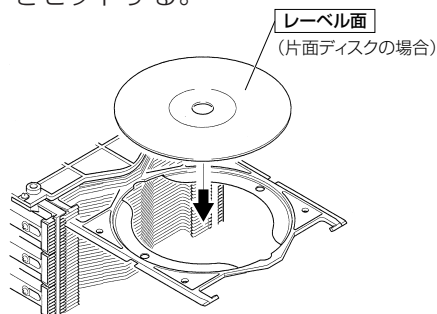
※電源がON状態でマガジンの出し入れを行い、ドアを閉めると脱着を行ったマガジン内のディスク有無を自動でチェックします。
(自動ディスクチェック機能が ON 状態の時→ 26 ページ)

### 挿入が不完全な場合

マガジンの挿入が不完全な状態でドアを閉めるとフロントパネルのLCD表示部にトラブルの発生を表示します。該当の番号のマガジンを確認し、再度ロックされるまで押し込んでください。

## 9.2 ディスクセット・交換

**ご注意**

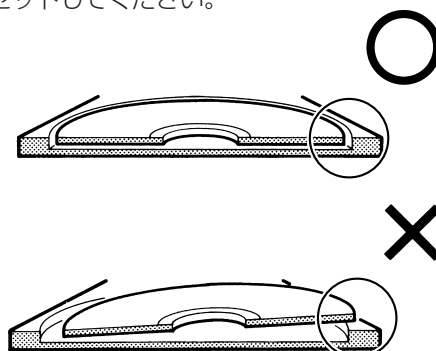
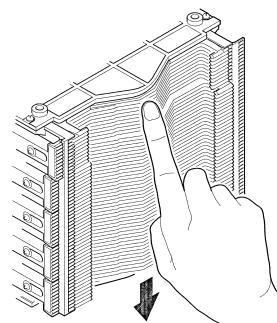
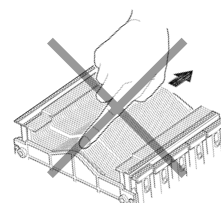
- メールスロットを使用せずに直接マガジンのトレイにディスクをセットする場合は、マガジンおよびトレイに損傷を与えないようにご注意ください。
- ディスクはディスク表面に付着したホコリや指紋、傷などにより記録／再生ができなくなる場合がありますので取り扱いには十分ご注意ください。
- DVD-RAM/R ディスクは特に傷や汚れに弱いのでご注意ください。
- 対応しているメディアは搭載しているドライブによって異なります。詳しくは各ドライブの取扱説明書をご覧ください。
- 両面ディスクをご使用の場合にはレーベル面がありませんので、取り扱いに十分ご注意ください。
- ラベルを貼ったディスクや破損変形したディスクを絶対に使用しないでください。故障の原因となります。
- 本機から取り出したディスクを他のドライブで使用される場合は、ドライブの仕様を確認の上ご使用ください。
  (他のドライブで記録、消去したディスクは、本機で再生できなくなる場合があります)
  (本機から取り出したディスクが再生できないドライブがあります)
- 両面ディスクをご使用の場合、表裏の区別ができないディスクもありますので、本機から取り出す場合や本機にデータの記録されたディスクを入れる場合はご注意ください。
- １枚のトレイにディスクを２枚セットしないでください。２枚以上のディスクを１枚のトレイにセットすると故障の原因となります。

**1.** マガジンを取り出す。
(➡ 24ページ　**9.1 マガジンの取り出し・装着** 参照)

**2.** 該当するトレイ番号のトレイロックを解除する。
(➡ 7ページ　**2.3 マガジン番号・トレイ番号・ディスク番号** 参照)

**3.** トレイを引き出す。

**4.** ディスクをセットする。

**5.** トレイを押し込み、トレイロックを戻す。

**6.** マガジンを装着する。
(➡ 24ページ　**9.1 マガジンの取り出し・装着** 参照)

**ご注意**

(1) ディスクがトレイのガイド部にのりあげないように確実にセットしてください。

(2) トレイの飛び出しおよびトレイロック不完全防止のため、マガジンのトレイを上から下まで指で軽く押してください。

(3) マガジンは常に上向きでお取り扱いください。さかさまや横向きにしますとディスクが脱落して故障の原因となります。

## 9.3 自動ディスクチェック機能

電源が ON 状態でマガジンの出し入れを行った場合、そのマガジン内のディスク有無を自動でチェックします。
電源が OFF 状態でマガジンの出し入れを行った場合は、この機能は動作しません。

**■ 動作モードの確認方法**
MODE キーを押したまま 5 秒以上待つ。
※出荷時は自動ディスクチェック機能が ON 状態となっています。

自動ディスクチェック **ON の場合**

```
AUTO DISC CHECK:
      ON
```

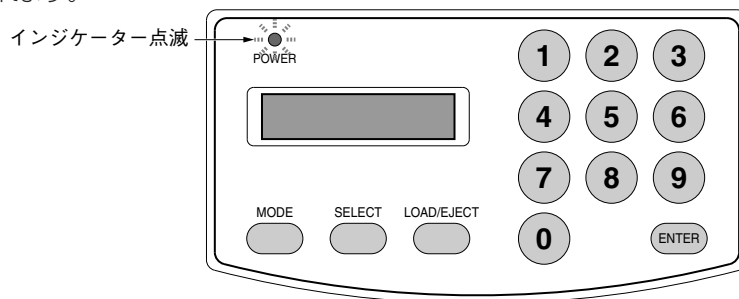
自動ディスクチェック **OFF の場合**

```
AUTO DISC CHECK:
      OFF
```

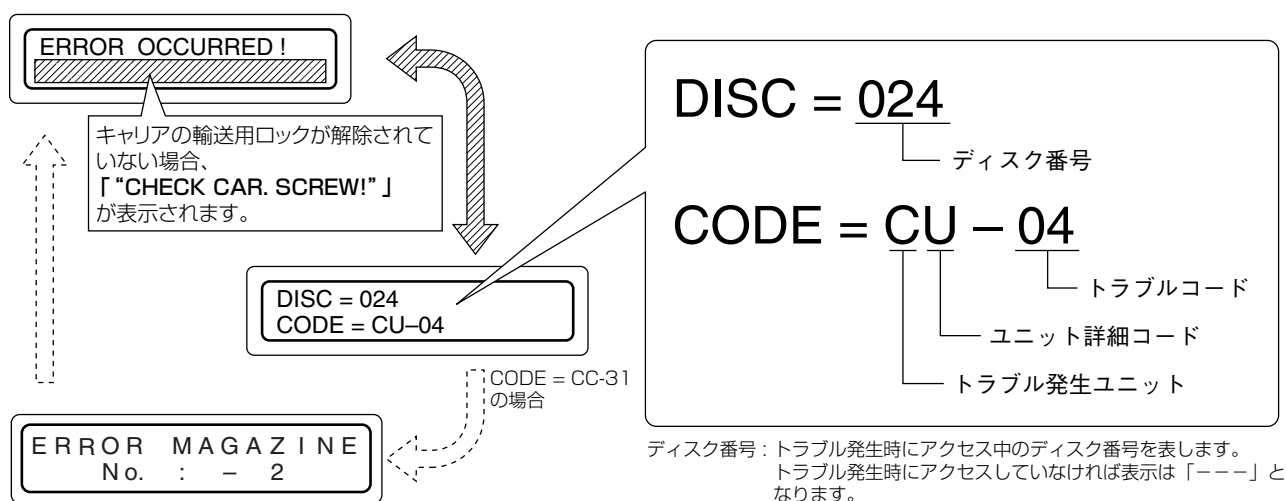
**■ 動作モードの切り換え方法**
SELECT キーと LOAD/EJECT キーを押しながら電源を切／入することにより、動作モードが交互に切り換わる。

- ご使用のドライバーソフトによっては、自動ディスクチェック機能によりマガジン内のディスク有無情報が更新された場合も、ホストコンピューター側のディスク有無情報を更新する作業を行う必要があります。

# 10. トラブルコード

トラブルが発生した場合には、コントロールパネルのインジケーターが点滅するとともにLCD表示部にトラブルの内容が優先的に表示されます。

## 10.1 トラブルコードの解説

トラブル発生時のLCD表示

ディスク番号：トラブル発生時にアクセス中のディスク番号を表します。
トラブル発生時にアクセスしていなければ表示は「－－－」となります。

トラブル発生ユニット・ユニット詳細コード

| トラブル発生ユニット | | ユニット詳細コード | |
|---|---|---|---|
| C | キャリア | U | アップダウン |
| | | L | トレイロック |
| | | C | キャッチャー |
| | | D | ディスク |
| | | F | 反転 |
| M | メールスロット | E | イジェクト |
| | | L | ローディング |
| | | T | トレイ |
| D1～D4 | ドライブ | T | トレイ |
| | | C | クランプ |
| | | E | イジェクト |
| | | D | ディスク |
| | | S | スピンドル |

- トラブル発生時は発煙等の非常時を除き、電源を切る前にトラブルコードを書き留めてください。
- トラブル発生時はディスク破損など新たなトラブルを防ぐため、できるだけ電源を切らずにお買い上げの販売店またはビクターサービス窓口にご相談ください。

## 10.2 トラブルコード一覧

| ユニット | ユニット詳細 | トラブルコード | トラブル内容 |
|---|---|---|---|
| C | U | 01 | UP/DOWNのロータリーセンサーが変化しない |
| | | 02 | 左スリットセンサーが変化しない |
| | | 03 | 右スリットセンサーが変化しない |
| | | 04 | UP/DOWNモーターが動かない |
| | | 05 | UP/DOWNモーターが脱調した、またはロータリーセンサー不良 |
| | | 08 | UP/DOWN動作が予定所要時間をオーバーした |
| | | 09 | UP/DOWN動作中に下限センサーがONした |
| C | L | 10 | トレイロックが解除できない |
| | | 11 | トレイロックができない、またはレーンチェンジができない |
| | | 12 | キャリア上下移動時,トレイロックがイニシャル位置にない |
| C | C | 20 | キャッチャー（右→左）移動動作が予定所要時間をオーバーした |
| | | 21 | キャッチャー（左→右）移動動作が予定所要時間をオーバーした |
| | | 22 | キャッチャー（右→左）収束動作が予定所要時間をオーバーした |
| | | 23 | キャッチャー（左→右）収束動作が予定所要時間をオーバーした |
| | | 24 | キャッチャー（右→左）トレイロータリーセンサーが変化しない |
| | | 25 | キャッチャー（左→右）トレイロータリーセンサーが変化しない |
| | | 26 | 右キャッチャーセンサーがONしない |
| | | 27 | 左キャッチャーセンサーがONしない |
| | | 28 | キャッチャーモーター（右→左）が動かない |
| | | 29 | キャッチャーモーター（左→右）が動かない |
| | | 30 | トレイがない |
| | | 31*2 | マガジンの挿入が不完全またはセンサーが不良 |
| C | D | 41 | キャリア上に行先のわからないトレイが存在している |
| | | 42 | トレイ上にディスクがない |
| | | 43 | 反転用のトレイがない |
| | F | 80 | 反転動作上昇時に予定所要時間をオーバーした |
| | | 81 | 反転動作下降時に予定所要時間をオーバーした |
| M | E | 50 | メールスロットのイジェクト動作ができない |
| | L | 51 | メールスロットのローディング動作ができない |
| | T | 52 | メールスロット内に行先のわからないトレイが存在している |
| D#*1 | T | 60 | ドライブ内に行先のわからないトレイが存在している。またはドライブの制御ケーブルが抜けている |
| | | 61 | ドライブ位置でトレイを引き出せない |
| | C | 62 | ドライブのディスククランプ動作ができない |
| | E | 63 | ドライブのイジェクト動作ができない |
| | D | 64 | ドライブからディスクを取り出せない |
| | S | 65 | スピンドルモーターがストップしない（イジェクト禁止状態） |

*1：「#」はドライブベイ番号を表します。
*2：マガジンの装着状態をご確認ください（➡ 24ページ **9.1マガジンの取り出し・装着** 参照）

## 10.3 “20”、“21”、“64”エラー解除方法

これらのエラー発生時には、ディスクが正常に移動されていません。また、ディスクやトレイ保護のため、電源を入れ直しても動作しません。エラー解除の作業は、お買い上げの販売店、またはビクターサービスセンターにお任せください。

解除操作

**ご注意**

- **キャリア内のディスクやトレイを取り除かずにエラー解除操作を行うと、ディスクやトレイを破損する場合があります。**

***1.*** 電源を切る

***2.*** ドアを開け、サイドパネル、センターパネルを外す

***3.*** キャリア内のディスクやトレイを取り除く

***4.*** ドアを閉じ、コントロールパネルの“0”キーを押しながら電源を入れる

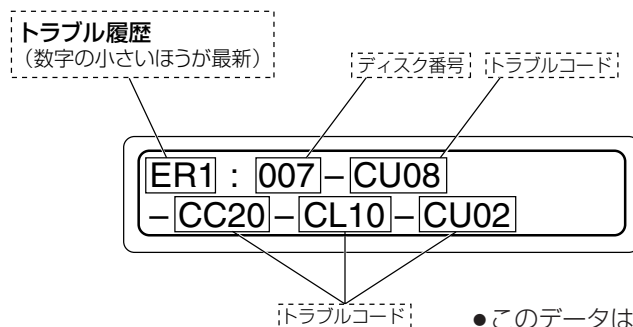
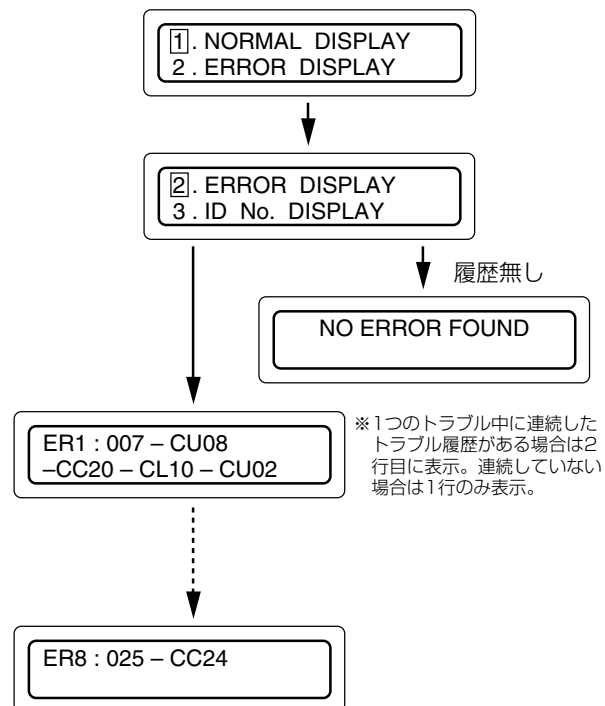
## 10.4 トラブル履歴表示

過去のトラブル履歴を確認することができます。

**1.** 通常表示からMODEキーを押す。
（メニュー表示にする）

**2.** SELECTキーを押す。（2. ERROR DISPLAYを表示）

**3.** ENTERキーを押す。（2. ERROR DISPLAYを選択）
トラブル履歴がなければ「NO ERROR FOUND」を表示します。
トラブル履歴があれば、内容を表示。最新の8 回分を記憶しています。

**4.** SELECTキーを押す毎に回数分のトラブル履歴を表示。

●このデータは6ヵ月以上連続して電源が入らないと消失することがあります。

## 10.5 トラブルシューティング

次の症状が発生した場合は、右の項目に関して再確認をおこなってください。

| 症状 | 原因 |
|---|---|
| ホストコンピュータでドライブまたはチェンジャーの認識ができない | ホストコンピューターのOSがWindows 2000で、ライブラリーのID No.が0のままになっている（→P.23） |
| | SCSIケーブルがUltra160対応ではない（→P.12） |
| | ホスト側SCSIボードの設定とケーブル長が間違っている（→P.12） |
| | SCSIコネクターが抜けている（→P.21） |
| | ドライブの電源ケーブルが抜けている（→P.21） |
| | SCSI−IDが重複している（→P.11, 21） |
| ドライブは認識されているが、ディスクがドライブに搬送されない | ドライブの制御ケーブルが抜けている（→P.21） |
| リード（ライト）エラーが発生する | ディスク汚れ、または傷が付いている（→P.4） |
| | SCSIケーブルがUltra160対応ではない（→P.12） |
| | ホスト側SCSIボードの設定とケーブル長が間違っている（→P.12） |
| | ドライブの制御ケーブルが差し間違い（→P.21） |
| ドライバーソフトでSCSIデバイスの初期設定ができない | SCSI−IDが重複している（→P.11, 21） |
| LCDに「"UNKNOWN DRIVE TYPE DETECTED"」と表示される | ドライブ自動判別モードを実施していない（→P.22） |

# 11. アクセスカウント

本体(チェンジャー)および各ユニットごと(キャリアー、ドライブ1〜4)のアクセス回数を確認することができます。

**1.** 通常表示からMODEキーを押す。
(メニュー表示にする)

**2.** SELECTキーを6度押す。
(7.COUNT DISPLAYを表示)

**3.** ENTERキーを押す。
(7.COUNT DISPLAYを選択)

**4.** SELECTキーを押すことにより表示が切り換わる。

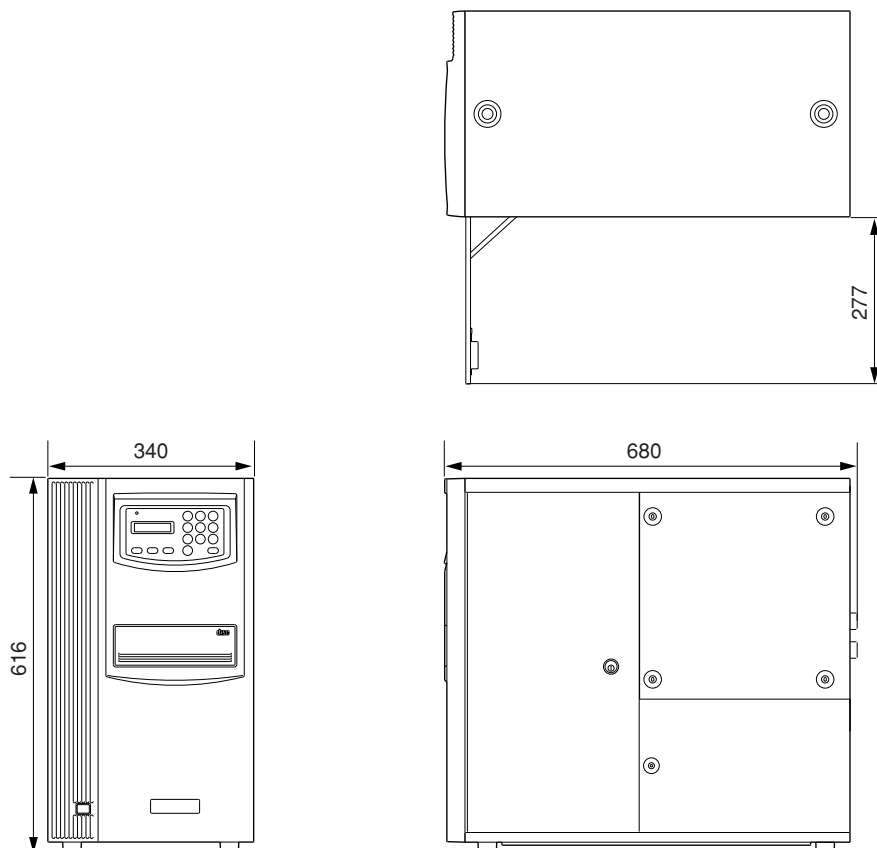
**1.** TOTAL ：出荷時からのトータル
**2.** CR ：キャリア
**3.** MS ：メールスロット
**4.** DR1 ：ドライブ1
**5.** DR2 ：ドライブ2
**6.** DR3 ：ドライブ3
**7.** DR4 ：ドライブ4
(**8.** FL ：反転
オプションキャリア**MC-CF10**搭載時のみ)

- 接続されていないドライブの回数は「−−−−−−」で表示されます。
- 「TOTAL」カウントについては、出荷時「999880〜999999」の値になっていることがあります。
- このデータは6ヵ月以上連続して電源が入らないと消失することがあります。

# 仕様

| 項　目 | | MC-9100 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ディスク収納枚数 | | 100枚 | | | |
| マガジン数 | | 2 | | | |
| 使用環境 | | 温度：5 ℃～35 ℃※1　湿度：10 %～80 % (非結露) | | | |
| 定格電圧 | | AC100 V | | | |
| 定格周波数 | | 50 Hz/60 Hz | | | |
| 定格電流 | | 1.5 A（最大値），1.2 A（ドライブ4台搭載時） | | | |
| 消費電力 | | 105 W（参考値，DVD-RAMドライブ4台搭載時） | | | |
| インターフェース | | 68ピン外部SCSIコネクター | | | |
| ドライブベイ | | 4 | | | |
| メディアサイズ | | 12 cmディスク | | | |
| 適合オプション | | オプションドライブ | 対応ディスク | | |
| | | DVD-RAM/R ドライブ | **MC-R434** | 記録･再生 | DVD-RAM（Ver. 2.1）、DVD-R（for General）、CD-R、CD-RW |
| | | | | 再生 | DVD-ROM、CD-ROM |
| | | ●ドライブの仕様についてはドライブの取扱説明書をご覧ください。<br>●その他のドライブについてはお買い上げの販売店にお問い合わせください。<br>●オプションドライブは、予告なく生産中止になる場合があります。そのため故障などの理由により修理交換となる場合、異なる機種に変更になる場合があります。<br>●使用中のライブラリーのオプションドライブを異なる機種に交換、または新たに追加した場合、アプリケーションソフト、デバイスドライバーなどによっては正常に動作しない場合があります。この場合、当社では責任を負いかねます。 | | | |
| | キャリア | 両面ディスク対応キャリア：**MC-CF10** | | | |
| | マガジン | マガジンセット：**MC-M25 (B)** | | | |
| 質量 | | 42 kg（ディスク，オプションは除く） | | | |

外形寸法
(単位：mm)

ドアオープン時（上面図）

※本機ならびに関連商品の仕様および外観は、
改良のため予告なく変更することがあります。

※1 ドライブを4台搭載する場合には使用環境温度5 ℃～30 ℃でご使用ください。

# 保守・点検

高信頼度の性能を維持するために「保守･定期点検」をお買い上げ販売店にご依頼くださるようお願いします。
目安は、

使　　用　　　　：1 年
(*1) 使用回数　　　：50,000 回

のいずれか先に達したときに「保守･定期点検」を受けることをおすすめいたします。

尚、「保守･定期点検」に要した部品代、技術工料などの費用は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず有料となりますのでご了承ください。

(*1) **使用回数とは**
キャリアが上または下に移動する回数のことをいいます。（イニシャル動作は除く）
表示方法は30ページ　**11.アクセスカウント**をご覧ください。

# 保証とアフターサービス（必ずお読みください）

**1. 保証書の記載内容ご確認と保存について**
この商品には保証書を別途添付しております。
保証書はお買い上げ販売店でお渡ししますので所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

**2. 保証期間について**
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。保証書の記載内容により、お買い上げ販売店が修理いたします。その他詳細は保証書をご覧ください。

**3. 保証期間経過後の修理について**
保証期間経過後の修理については、お買い上げ販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料にて修理いたします。

**4. アフターサービスについてのお問い合わせ先**
アフターサービスについてのご不明な点はお買い上げ販売店、または別紙サービス窓口案内をご覧のうえ、最寄のサービス窓口にご相談ください。

● **修理を依頼されるときは**
お買い上げ販売店に次のことをお知らせください。

- **CD/DVDライブラリー MC-9100**
- **お名前とおところ**
- **電話番号**
- **故障症状（詳しく）**

**5. 廃棄について**
この商品を廃棄する場合は、法令や地域の条例にしたがって適切に処理してください。

**お客様ご相談センター**

フリーダイヤル　0120－2828－17

携帯電話・PHS・FAXなどからのご利用は
電話 (03)5684-9311 ［代表］
FAX (03)5684-9317
〒113-0033　東京都文京区本郷3丁目14-7 ビクター本郷ビル

**日本ビクター株式会社**
**プロシステムカンパニー**
〒192-8620　東京都八王子市石川町2969-2　　電話（0426）60-7292



LST0169-001C